



# 源氏物語研究叢書

全17卷

日向一雅 監修 解題

株式会社クレス出版

# 『源氏物語研究叢書』の刊行にあたって

日向一雅

本叢書は明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅しようとしたものである。ただし近年復刻されたものは除いた。今日の源氏物語研究は細分化と多様化がいちじるしいが、そのために逆に源氏物語の全体像の把握が困難になっているという面がある。本叢書は近代における研究史を顧みること、この細分化し多様化した研究を総合的に統合していく視点の獲得に資することを念じるものである。

近代の源氏物語研究は、梅沢和軒『清少納言と紫式部』(明治三五年)、藤岡作太郎『国文学全史平安朝篇』(明治三八年)、五十嵐力『新国文学史』(明治四五年)など、近世国文学の研究成果を受け継ぎながら、多かれ少なかれ近代ヨーロッパの文学思想の影響下に出発した。これらの著作は源氏物語の達成と紫式部の思想における写実主義や理想主義を熱く論じて、今日にまで継承されるすぐれた論点を示した。

明治期のこうした総論を受けて、大正から昭和十年代にかけては物語の方法や本文についての具体的な研究が進展する。手塚昇『源氏物語の新研究』(大正十五年)は中世以来の準撰説とは異なってモデル論を展開し、源氏物語の同時代的性格を論じ、島津久基『源氏物語新考』(昭和十一年)は従来の写実主義、理想主義、モデル論の議論を批判的に統合しようとした。渡部栄『源氏物語律調論』(昭和十五年)の文体論、外山英策『源氏物語の自然描写と庭園』(昭和十八年)の風景論、庭園論など、ともに異彩の論である。本文研究も精力的に行われ池田亀鑑『校異源氏物語』(昭和十七年)の刊行を見、のちに『源氏物語大成』へと結実する。

昭和二十年代の特色は戦争中の業績が刊行されたことと、研究方法や研究テーマが多彩になり、歴史社会的方法が斬新な成果をもたらす一方で、成立論・構想論が学界の大きな関心を集めたことである。前者では、吉澤義則が語義を中心とした解釈に基づいて時流に警鐘を鳴らす論陣を張り、今井卓爾『源氏物語批評史の研究』(昭和二十三年)は平安以降の各時代の社会の変動との関わりの中で源氏物語の批評史を展望した。成立論に終焉をもたらしたのが長谷川和子『源氏物語の研究』(昭和二十三年)である。

本叢書は今日入手困難な著書の復刊であるが、これが多少とも今後の研究に役立つならば幸いである。

(明治大学文学部教授)

## 『源氏物語研究叢書』全17巻を推す

金蘭短期大学教授  
大阪教育大学名誉教授

森 一郎

吉沢義則、島津久基、池田亀鑑等々すぐれた先人たちの著作は、今日の源氏研究の礎石であり、高教をたまわること多大である。しかるに、それらの著作が入手至難あるいは不可能となっている現状は無視できないのである。個人はもとより、全国の多くの大学図書館でも不備という現状は、源氏研究の礎石を欠くものといふべく、クレス出版がこれに着眼して、今日入手の困難な明治から昭和三十年代初期までの重要な著作や稀覯書を選び復刻して、広く研究者の

## 特に若い世代の人々にお勧めしたい

東京大学文学部教授

鈴木日出男

概略のみをみこんでいたはずの論文を、あらためて読み返して、思わぬ発見に目をうばわれることがしばしばある。『源氏物語』の長い研究史に培われてきた古典的な論考とはまさにそのような感動を与えてくれる。このたび刊行される『源氏物語研究叢書』はそうした論稿の数々を壮大な規模で収めている。われわれが日ごろ心がけねばならぬ一つに、こうした遺産に対して偏った思いこみをいだいてはならぬということがある。たとえば、直接には作品の成立を論じていながらも、その行間には物語の本性が見据えられていたり、人

方々に提供しようと企画したことは学界にとって喜びに堪えない。今日のおびただしい源氏研究書の出版に比して往時は色々な事情からその数は少ない。ごく限られた著名な学者のみ、それもごく少なくしか著作の刊行は出来なかつたことを痛感する。その意味での研究叢書全17巻は入手困難な重要な著作を揃えているといつてよい。源氏研究の第一人者、明治大学教授日向一雅氏の選書による本叢書は、今日の研究にとって有益であり、研究史的にも意義の深いものであるばかりか、五十嵐力の著作などをはじめ、その時代の研究の特色や雰囲気伝えており、これら先人の著作から学ぶことは多大である。

研究者の方々、図書館等に心からおすすめてほしいと思う次第である。物造型の機微とらえる目が光っていたりする。その多くには、作品にいだかれつつもその行文をとらえかえす研究主体の心の魅力があらふれている。要は、読み手の対し方いかんで、古典的論文が古典的な力を発揮してくれるものようである。

この叢書の大きさに接すると、個人的な感懐も禁じがたい。たとえば、なんとも入手しがたかつた渡部栄『源氏物語律調論』を後年コピーで読んだ時の新鮮な感動。大学院の学生だったころ、このたびの監修者である日向氏らと、こうした歴史的な論文をどう取りこもうかに腐心したものだつた。四分の一世紀も前のことである。これを機に、こうした論文をあらためて熟読し直したい思いが強まってくる。研究の不易流行という理想をめざすべく、これを特に若い世代の人々にお勧めしたい。伝統の中の新鮮さを発見するためにも、である。

# 源氏物語研究叢書

## 全17巻構成一覽

### 第1巻

#### 紫式部 — 人とその作品 —

●島津久基／昭和23年／日本書院

(初版、昭和18年／青梧堂)  
伝記的研究であるが、作品を通して紫式部の世界観にも論究する。

〔内容〕緑族の人々、その生涯、紫式部の名交友、創作、作品を通して親れた紫式部、略年譜(仮案)、紫女と清女(随想)。付、初版の巻端私言、結び

#### 紫式部の芸術を憶ふ

— 源氏物語論攷 —

●島津久基／昭和24年／要書房

作家・作品に関する論文のほか、作中の人物の批判解剖やモデル考、考証、参考覚え書資料など多様な着想にとむ。

〔内容〕われ／＼はもつと驚いてよいのではないか—紫式部の神才を憶ふ—、平安朝の国語芸術—源氏物語とことば—、宣長と秋成—源氏物語をめぐる二大家の創作と論説と—、光源氏の性格批判、六条御息所の精神分析、明石入道と明石上のモデルに関して、光源氏と白楽天—小櫛の「唐めき」論に関連して—、薫と匂(宇治十帖の予想)、アンドレ・ジイドの「狭き門」と源氏物語宇治巻(覚え書)、源語秘事考、源氏ノート、源氏物語と日本の近代作家

### 第2巻

#### 清少納言と紫式部

●梅沢和軒／明治45年／実業之日本社

(初出、明治35年／国光社)

西洋文学の知見を駆使した方法による作家論。作中人物の心情分析から作者の人生観を抽出して、浄土教の精神と結びつける。

〔内容〕清少納言(伝記、美的皇后、枕草子、枕草子の文章、清少納言の和歌、新しき女としての清少納言)紫式部(伝記、時代の思潮を論ず、紫式部の理想を論ず、小説としての源氏物語、諸家の源語論を評す)



### 第4巻

#### 源氏物語の新研究

●手塚昇／大正15年／至文堂

モデル論・執筆時期・創作心理など、当時としては斬新で主体的な姿勢が示されている。

〔内容〕時代の概観、源氏物語の作者に就て紫式部、源氏物語著作の時期、源氏著作期と更級日記、前代文学の影響、紫式部の抱負、源氏物語のモデル、主要人名に関する臆説、源氏物語の梗概及び研究書に就て、古来の源氏物語の大勢、評論に就て、形式方面の研究論評、内容方面の研究論評



### 第5巻

#### 源氏物語新考

●島津久基／昭和11年／明治書院

研究、講説、論叢の三部に分け、考証的論文や評論より成る。

〔内容〕研究篇(源氏物語総論、源氏物語論考、源氏物語に描く作者の自画像のいろ／＼)、源氏物語に現れたる自然、紫式部名義小考)講説篇(源氏物語と宮廷生活、玉の小櫛から更級日記へ、源氏の尊さ・美さ・面白さ)論叢篇(紫女と清女、源氏物語と現代作家、紫式部日記と源氏物語、宇治の二人の姫、源語叢話、源語旁筆)

### 第6巻

#### 源氏従一位麗子本之研究

●渡部栄／昭和11年／大道社

著者架蔵の一本を従一位麗子本として、文献学的証明を試みた。

〔内容〕従一位麗子につきて、松風巻につきて、従一位麗子本の本文につきて、唐物語につきて

#### 源氏物語律調論 上巻

●渡部栄／昭和15年／文学社

源氏物語本文の聴覚的な律調性を追及した文体論。

〔内容〕句の長連続、变化的手法、対偶的手法及び一句二部仕立につきて、引歌につきて(源氏物語以前の引歌の状態、源氏物語の引歌、引歌出典の考証)会話・消息文の諸形式及び地の文との関係につきて



#### 紫式部 — その生活と心理 —

●神田秀夫・石川春江／昭和31年／角川書店

文芸心理学の試論。『紫式部日記』を主たる資料として、紫式部の精神構造・分裂性気質などを分析し、創作の秘密に迫る。

〔内容〕源氏物語の作者はどんな世界に人となったか、宮廷の紫式部はどのように生きていたか(日記のなかの相反する二傾向、生活圏、宮仕以前からのもの、生活圏内の人々、仕事部屋のなか、文壇がない、文壇が欲しい、未亡人の「女房」、紫式部の精神はどんな構造をもっていたか(外界に対して、自己に対して、思考の反転、分離性気質と紫式部の性格)源氏物語は作者の娯楽であった(フランス・トレイション、出家ということ、絶望のなかの廻転、そういう作者のものとしての源氏物語)

### 第3巻

#### 源氏物語論集

●五十嵐力／明治45年『新国文学史』早稲田大学出版部

平安朝文学の代表者としての源氏物語

●堀部正二／昭和18年『中古日本文学の研究』資料と実証—教育図書

源氏物語雑々私記、桂中納言物語と末摘花、「桜人」、「狭き門」、「巢守」攷

●池田亀鑑／昭和24年『季刊望郷』望郷社

源氏物語の構成とその技法

●池田亀鑑／昭和26年『日本学士院紀要』

源氏物語古系図の成立とその本文資料的価値につきて

### 第7巻

#### 源氏物語の精神史的研究

●関みさを／昭和16年／白水社

先進文学、理念的形像、描写様式、影響と享受批評史などにわたって論じる。

〔内容〕先進文学の精神史的展開、精神内容に関するもの、描写及様式等に関するもの、各時代に於ける源氏物語の影響と研究及批評の概観、源氏物語翻訳について

### 第8巻

#### 源氏物語の自然描写と庭園

●外山英策／昭和18年／丁子屋書店

源氏物語を日本最初の風景論として、『白氏文集』や桂離宮と関係づけて考察する。文献的に日本庭園成立史を論考し、「源氏物語の庭園描写」では、庭園関係記事を整理論評している。

〔内容〕源氏物語の作者、白氏文集と源氏物語、自然愛好と庭園、源氏物語の自然描写、源氏物語の庭園描写

### 源氏随攷

●吉沢義則／昭和17年／晃文社

用語例の検討を中心とした随想。

〔内容〕紫式部の用語精神、源氏物語とは、螢巻の物語論を解く、源氏物語を見る眼、紫式部の結婚観、源氏物語に於ける助動詞「給ふ」の用法、桐壺巻「明暮御覧する長恨歌の御絵」の釈、帚木巻「この音も月もえならぬ」の釈、橋姫巻「扇ならでこれしても月は招きつばかりけり」の釈、梅枝巻「芦手歌絵を思ひくゝに書け」の釈、源氏用筆例、「いづこのさる女かあるべき」の釈、湖月抄の指導性、須磨巻「まして落ちとまりぬべくなむおほえける」の「まして」の釈、源氏物語文段の一つの纏め方、文法上の諸問題、助動詞「給ふ」(下二段)の複合性、複合語の分離性、動詞中止形の複接用例、「さまに」「やうに」といふ言葉で云つてある副詞的修飾語の解き方、テによつて導かれた用言の副詞的用法、蜻蛉巻「似るべきこのかみや侍るべき」の釈、「まな」の解、誤られた源氏の利用、香ひの趣味、紫式部の対外意識、紫式部の大和魂観、定家本源氏物語に就ての覚書、鎌倉時代源氏物語、甘露寺親長自筆本、釈正徹自筆本



物語の物語論、雨夜の品定めに見られる婦人観、附常夏巻の一節、源氏物語の理想人物、源氏物語の文章、源氏物語伝本の種類並註釈書

### 第10巻

#### 源語釈泉

●吉沢義則／昭和25年／誠和書院

源氏物語の用語について四六項目にわたり検討考察する。

〔内容〕「アカツキ」・「シノ」・「メ」・「アケボノ」・「芦手」・「歌絵」・「あてなり」・「いう(優)なり」・「いつしか」ほか

### 第11巻

#### 源氏物語論究 光源氏の巻

●服部直人／昭和22年／高山書院

近代の「小説文学」とは異なる源氏物語の「物語」としての特質を、鑑賞や民族学的な知見等を交えつつ論究する。

〔内容〕誕生、紫の上、四人の女性、愛欲と憎悪と、清め、明石の上、朝顔・玉鬘、女三の宮、死と不死と、憂愁

### 「知」の平安婦人

— 源氏物語を通して観たる —

●吉沢義則／昭和26年／一正堂書店

平安貴族女性の社会的地位の高さ、精神的独立性、文化的価値などを論ずる。

〔内容〕平安婦人の位置とその教養、平安婦人の精神的独立とその文化的価値、平安人

#### 源氏物語論究 薫の巻

●服部直人／昭和22年／高山書院

〔内容〕罪の人、誕生と成長、薫と匂、肉身の否定、異郷、弁、宇治の大君、宇治の中君、第三の人、薫の出發、尼の物語

### 第12巻

#### 源氏物語批評史の研究

●今井卓爾／昭和23年／鮎沢書店

社会との連関性を重視した批評史。全体を五期に分け、批評傾向の変遷に批評の積極性を見出している。

〔内容〕「源氏物語」批評の歴史的研究、平安時代(紫式部と「紫式部日記」、「更級日記」作者、紫式部の墮獄、鎌倉時代(「無名草子」、歌論的「源氏物語」観、藤原定家と「伊行釈」、河内一派の研究、「弘安源氏論義」、比較研究、説話的「源氏物語」観、歌謡と「源氏物語」、批評経過の概要)室町時代(「河海抄」、歌人・連歌師の見解、謡曲と「源氏物語」、正徹、其他の初期の研究、一条兼良、宗祇、其他の末期の研究、中院通勝「岷江入楚」、お伽草子類と「源氏物語」、批評経過の概要)江戸時代(北村季吟「源氏物語湖月抄」、熊沢蕃山「源氏外伝」、契沖「源註拾遺」、安藤為章「紫家七論」、其他の初期の研究、和歌・歌論と「源氏物語」、仮名草子・浮世草子と「源氏物語」、賀茂真淵「源氏物語新釈」、俳諧・俳論と「源氏物語」、狂歌師の「源氏物語」利用、演劇と「源氏物語」、戯作と「源氏物語」、本居宣長「源氏物語玉の小櫛」、其他の中期の研究、絵画と「源氏物語」、柳亭種彦「修紫田舎源氏」、萩原広道「源氏物語評釈」、其他の末期の研究、批評経過の概要)明治時代(近藤芳樹「源語奥旨」、「小説神髓」と「源氏物語」、「源氏物語」批評史の本質

### 第13巻

#### 源氏物語論

●加藤順三／昭和15年／弘文堂書房

源氏物語の「思想と印象」を「読む立場」で自在に論ずる。天台の大乗空観、影響論、紫式部の主体、「螢」巻の物語論など。附論「もの、あはれと西鶴の作品」は、和歌と物語を一元視する本居宣長の「ものあはれ」説を批判、また、西鶴に「をかし」と「あはれ」の共存を読みとる。

### 第16巻

#### 源氏物語の語法

●北山谿太／昭和26年／刀江書院

多くの用例に即して語彙・語法を明らかにする。

〔内容〕文脈と句読、語句の倒置、語句の挿入、語句の省略、体言に準ずる言ひ方、連体修飾語、連用修飾語、動詞の連用複合、助詞、助動詞、敬語、音の清濁、人名称呼など

### 第17巻

#### 源氏物語の研究

— 成立に関する諸問題 —

●長谷川和子／昭和32年／東宝書房

先行する成立論の諸説を批判的に整理する。

〔内容〕武田宗俊氏著「源氏物語の最初の形態」の検討、源氏物語年紀考、源氏物語に於ける構想の発展の内部徴証による考察、「匂」「紅梅」「竹河」三巻の問題

### 第14巻

#### 新講源氏物語 上巻

●池田亀鑑／昭和26年／至文堂

抄出本文付きの梗概書だが、初めに長篇的説話系列と短篇的説話系列とに分かつ構成論や三部構成説を説き、各巻の解説では主題や成立に関する見解を述べる。「桐壺」から「玉鬘」まで

### 第15巻

#### 新講源氏物語 下巻

●池田亀鑑／昭和26年／至文堂

上巻に続き、「初音」から「夢浮橋」



# 源氏物語研究叢書

全17巻 / 日向一雅監修・解題

■ 第一回配本 第1巻〜第8巻

一九九七年五月末日刊  
揃定価八八、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-032-1

■ 第二回配本 第9巻〜第17巻

一九九七年十月末日刊  
揃定価八七、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-033-X

■ 源氏物語研究叢書 全17巻

揃定価一七五、〇〇〇円(税別)  
■ 体裁・造本 A5判・上製函入  
本文クリーム中性紙使用

## ◆ 国文学関係書籍のご案内 (定価は税別)

### 芭蕉研究資料集成

全39巻 久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。

- 明治篇全9巻 揃定価一〇六、〇〇〇円
- 大正篇全11巻 揃定価一五〇、〇〇〇円
- 昭和前期篇全19巻 揃定価二七五、〇〇〇円

### 蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。

揃定価一八六、〇〇〇円

### 西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。

揃定価一二六、〇〇〇円

### 徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七十二名の伝記集。年譜・肖像画付。

揃定価七六、〇〇〇円

### 近世文芸研究叢書

全63巻 近世文芸研究叢書刊行会編・解説

近世文学・芸能に関する明治大正に刊行された名著稀書を復刊。

- 第一期文学篇全23巻 揃定価二九一、〇〇〇円
- 1、通史 全7巻 揃定価八〇、〇〇〇円
- 2、一般 全7巻 揃定価九六、〇〇〇円
- 3、作家 全9巻 揃定価一一五、〇〇〇円
- 第二期芸能篇全40巻 揃定価五五八、〇〇〇円
- 1、歌舞伎I 全10巻 揃定価一三五、〇〇〇円
- 2、歌舞伎II 全10巻 揃定価一三八、〇〇〇円
- 3、浄瑠璃 全10巻 揃定価一四五、〇〇〇円
- 4、舞踊・邦楽・諸芸・雑纂 全10巻 揃定価一四〇、〇〇〇円

### 俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない図像や刺記、書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。

揃定価一五〇、〇〇〇円

### 市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解説

新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。

揃定価一〇二、〇〇〇円

### 日本鹿子

磯貝舟也著 久富哲雄解題

元禄四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。

定価一八、〇〇〇円

### 影印 仮名錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻。「錦繡段」「三體詩」は、天和版と元禄版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。

定価一〇、〇〇〇円